

授業改善プラン

1 年 教科 (社会)

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1 学期		2 学期		3 学期
	課題分析	具体的な改善プラン	課題分析 (授業分析・プランの一次評価)	一次評価後の 具体的な改善策	改善プランの評価 来年度に向けて
社会的事象への 関心・意欲・態度	○全体的に高い。 ▲苦手意識や知識の不足から自信を持ってない生徒もいる。	毎時間、大型ディスプレイなどのICT機器を活用し、興味関心を高める導入を意識する。	ICT機器の有効活用は、生徒の理解の一助になっていることが分かる。(アンケートから)	社会科を苦手とする生徒や低学力層への机間指導を重視し、個に応じた指導を充実させる。	
社会的な 思考・判断・表現	▲文章記述や、知識の活用を伴う問題に苦手意識をもつ生徒がいる。	授業のワークシートで意図的に文章記述の問題を設け、知識を整理する習慣をつける。適切な助言を与え、達成感を味あわせる。	徐々に記述問題への取り組み意欲や自信ができてきている。(アンケートから)	今後も丁寧な机間指導で、知識の活用問題へのチャレンジ精神を高めていく。	
資料活用の技能	○全体的に技能は高い。 ▲複数の資料や情報量の多い資料には対応できていない(発展的)。	発展的内容として、複数資料の読み取りを多くし、読み取りが苦手な生徒への助言を重ねる。	発展的内容の充実と、苦手意識をもつ生徒への配慮のバランスが悪い。	生徒同士の教え合い活動や、グループワークでの解答作成など、工夫して発展内容に取り組む。	
社会的事象についての 知識・理解	○全体的に高い。 ▲定着に課題がある生徒がいる。	定期考査や長期休業の課題として用語チェックプリントを作成し、組みませる。	復習確認テストにおいて、基礎的な知識定着に課題があることがわかった。	用語チェックプリントだけでなく、授業における重要内容の強調を合わせて行う。	
授業改善の検証方法		ワークシートの記述 小テスト 定期考査	ワークシートの記述 小テスト 定期考査 グループワーク	ワークシートの記述 小テスト 定期考査 グループワーク	

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	1 学期の成果と課題	1 学期の成果を踏まえた 具体的な改善、追加事項	2 学期までの 成果と課題	1 年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～	生徒の意欲を高め、対話的学習を深めるため、ペアワークを実践。	○生徒の意欲的な活動につながっている。 ▲低学力生徒への配慮。	ペアワークからグループワークへの発展	教え合いや、グループでの解答作成など、言語活動を活性化する。	

授業改善プラン

2年 教科（ 社会 ）

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1 学期		2 学期		3 学期
	課題分析	具体的な改善プラン	課題分析 (授業分析・プランの一次評価)	一次評価後の 具体的な改善策	改善プランの評価 来年度に向けて
社会的事象への 関心・意欲・態度	○全体的に高い。 ▲苦手意識や知識の不足から自信を持ってない生徒もいる。	毎時間、大型ディスプレイなどのICT機器を活用し、興味関心を高める導入を意識する。	ICT機器の有効活用は、生徒の理解の一助になっていることが分かる。(アンケートから)	社会科を苦手とする生徒や低学力層への机間指導を重視し、個に応じた指導を充実させる。	
社会的な 思考・判断・表現	▲文章記述や、知識の活用を伴う問題に苦手意識をもつ生徒がいる。	日々の授業のワークシートで意図的に文章記述の問題を設け、知識を整理する習慣をつける。	徐々に記述問題への取り組み意欲や自信ができてきている。(アンケートから)	今後も丁寧な机間指導で、知識の活用問題へのチャレンジ精神を高めていく。	
資料活用の技能	○高い技能をもつ生徒もいる。 ▲基本的な資料の読み取りができていない生徒が多い。	資料活用と思考判断を複合した問題を日々の授業で提示し、経験を積ませる。	学力調査では、知識の活用力は都の平均なみにあることがわかった。	苦手意識をもつ生徒への机間指導や発展的な内容を充実させる。	
社会的事象について の知識・理解	○全体的に高い。 ▲定着に課題がある生徒がいる。	定期考査や長期休業の課題として用語チェックプリントを作成し、取り組ませる。	都の学力調査において、学習内容の定着に課題が見られた。	授業における重要内容の強調と、小テストによって基礎的な内容の確実な定着を図る。	
授業改善の検証方法		ワークシートの記述 小テスト 定期考査	ワークシートの記述 小テスト 定期考査 グループワーク	ワークシートの記述 小テスト 定期考査 グループワーク	

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	1 学期の成果と課題	1 学期の成果を踏まえた 具体的な改善、追加事項	2 学期までの 成果と課題	1 年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～	生徒の意欲を高め、対話的学習を深めるため、ペアワークを実践。	○生徒の意欲的な活動につながっている。 ▲低学力生徒への配慮。	ペアワークからグループワークへの発展	教え合いや、グループでの解答作成など、言語活動を活性化する。	

授業改善プラン

3年 教科 (社会)

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1 学期		2 学期		3 学期
	課題分析	具体的な改善プラン	課題分析 (授業分析・プランの一次評価)	一次評価後の 具体的な改善策	改善プランの評価 来年度に向けて
社会的事象への 関心・意欲・態度	○全体的に高い。 ▲苦手意識や知識の不足から自信を持ってない生徒もいる。	毎時間、大型ディスプレイなどのICT機器を活用し、興味関心を高める導入を意識する。	ICT機器の有効活用は、生徒の理解の一助になっていることが分かる。(アンケートから)	社会科を苦手とする生徒や低学力層への机間指導を重視し、個に応じた指導を充実させる。	
社会的な 思考・判断・表現	▲文章記述や、知識の活用を伴う問題・自分の意見の表現に苦手意識をもつ生徒がいる。	授業ワークシートでの記述問題やディスカッションを通して表現力を高める。	ディスカッションやレポート作成が意欲的に行われている。一方、意見が言えない生徒もいる。	生徒同士でグループ内での意見の促しや、助言をできるように指導を重ねる。	
資料活用の技能	○全体的に技能は高い。 ▲複数の資料や情報量の多い資料には対応できていない(発展的)。	ディスカッションにおける意見形成において、根拠を強調し、必ず資料を活用させる。※教師は資料を複数用意する。	根拠をもった意見形成ができている。	継続して指導していく。	
社会的事象について の知識・理解	○全体的に高い。 ▲定着に課題がある生徒がいる。	定期考査や長期休業の課題として用語チェックプリントを作成し、取り組ませる。	復習確認テストからは、基礎的な内容の定着に課題が見られる。	ワークチェックを毎週の定期チェックに切り替え、基礎を再確認する。	
授業改善の検証方法		ワークシートの記述 定期考査 ディスカッション	ワークシートの記述 小テスト 定期考査 グループワーク	ワークシートの記述 小テスト 定期考査 グループワーク	

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	1 学期の成果と課題	1 学期の成果を踏まえた 具体的な改善、追加事項	2 学期までの 成果と課題	1 年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～	生徒の意欲を高め、対話的学習を深めるため、ペアワークやディスカッションを実践。	○生徒の意欲的な活動につながっている。 ▲低学力生徒への配慮。	グループ活動やレポート作成などの言語活動の一層の充実	根拠のある持論形成を発展し、多角的、多面的視点を意識させる。	